

畑中 静香さん 株式会社しんえこ

人の役に立つ仕事をしたかった

一般家庭から回収した古紙や古着、金属類を対象に複数の市町村から効率的に回収する広域リサイクルモデルを構築したしんえこ（長野県松本市）は、2020年まで松本市や安曇野市など長野県北部13市町村で一般廃棄物の収集運搬の効率化とリサイクル率の向上の効果を示すため実証を行っている。実証の要となる回収ボックスにはセンサーが搭載され、堆積量を測定して遠隔確認しながらある程度溜まってから回収できる効率性がメリット。一方、市民にとっては回収ボックスが道の駅などに設置され24時間機能しているため、予約不要で好きな時に持ち込めることが評価されている。同社が4月1日に安曇野市にオープンした「しんえこプラザあづみ野」にも回収ボックスを設置しているが、受付窓口も設けて、高齢者等に対面型の分かりやすい対応を行っている。今回は同所で窓口業務を行っている中途入社2年目の営業チーム、畑中静香さんに話を聞いた。

——前職は。

中学校や予備校で教職に就いていました。長野県で生まれ、大学は兵庫県、教育職に就いていた時期は愛知県にいました。2年前、婚約を機に退職して夫の転勤で長野県に戻ってきました。

——産廃処理事業に携わることに抵抗はなかったですか。

「人の役に立つ仕事をしたかった」。これは、教職に就いた動機と同じです。また、長く続けられる仕事と考えた時に、今後必要不可欠なものは生活するうえで欠かせないごみに関係するものだとも思いました。育休制度もあり、教職に就いていた時は土日出勤もサービス残業もありましたので、その点でしっかり週に2日休めるのも魅力でした。ごみ処理場は臭いなどの面で環境が悪いというイメージを親や知り合いから心配されていたので、どんな職場か心細かったのですが、当社は思っていたよりもきれいな職場という印象で、一般的な廃棄物処理事業へのマイナスのイメージは全く感じませんでした。

——業務内容を教えてください。

入社当初は松本市の本社に勤務し計量業務を担当しておりました。思っていた以上に接客業務が多く、ドライバーさんなどとコミュニケーションが大事だと感じました。しんえこプラザあづみ野の新設に合わせてこちらに配属されました。ここでは市民の方が持ち込む一般廃棄物の受付業務を行っています。安曇野市の清掃センターの受入では、排出物を40cm角に切断して持



年内に休暇を取ってハワイに新婚旅行に行くという畑中さん

ち込まなければならないのですが、こちらには現状のまま予約なしで持ち込めるため、処分できずに困っていたものが片付いたと感謝されます。お金をいただいて処理をさせていただいているのですが、お客様から感謝していただけることをとてもうれしく思います。

——お話をうかがっていると表情などから楽しく仕事ができているようですが、苦労されたことはありますか。

資源物の種類や価格などについて、自分の中で理解し、対応できるようになるまで時間がかかり、電話での問い合わせでも即答できないことがありました。今は慣れてきて、計量業務をしている時に「このお客さん久しぶりにいらしたな」と確認できるぐらい余裕を持てるようになりました。